



# 「鍼灸」は「効果」があるのか？

文●関 忠雄

第8回

## 自律神経の鍼治療(迷走神経の鍼灸治療)

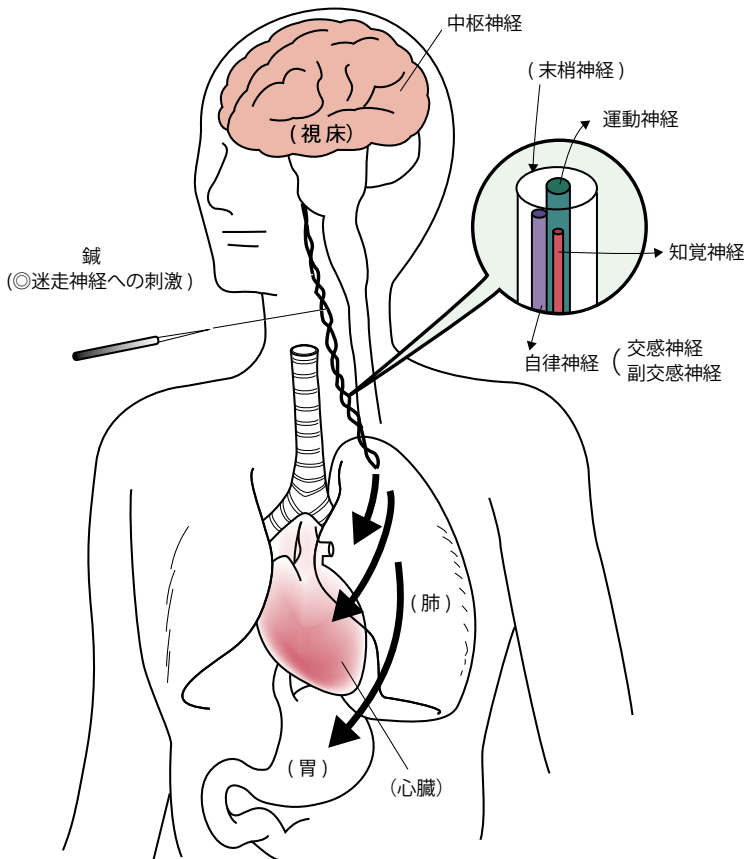
### 1. 迷走神経の刺鍼療法

喉に果物の種が詰まったような感じがしたり、喘息発作で苦しかったり、迷走神経への鍼灸治療をする対象は広い。以前は頸部に対する鍼灸の手法は少なかったので代田文誌先生の洞刺は単刺術を用いた。針麻酔の頃から広がった通電治療は、雀啄術のように周りの組織を大きく傷つけることなく迷走神経に刺激を与えられるので、臨床上応用範囲が広い。喉の刺鍼はなるべく喉頭に近い部分に刺入する。内頸静脈は比較的外側を走るので喉頭に近い方が内出血を起こすことが少ない。頸部はよく人の目につくので、患者さんが他の人から誤解を受けないように気をつけるのがよい。

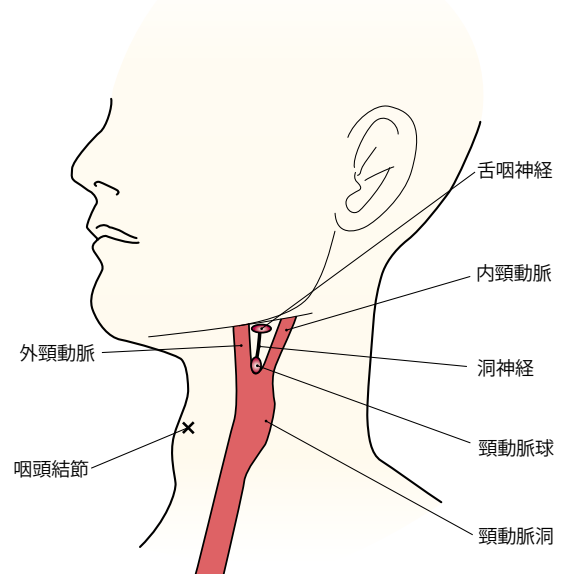
### 2. 迷走神経刺鍼について

迷走神経は、脳神経の一つであり、副交感神経や咽頭・喉頭・食道上部の運動神経、腺の分泌神経などを含み延髄から出ている。脳神経でありながら、体内で多数枝分かれして複雑な経路をとり、腹腔にまで広く分布しているところから、迷走という名前が付けられた。

迷走神経は内臓(胃腸や心臓、血管など)に多く分布し、体内の環境をコントロールしている。強い痛みや精神的



(図2) 迷走神経



(図1) 頸動脈および頸動脈球



(写真①) 迷走神経への神経刺激

ショックなどが原因で刺激されると迷走神経が過剰に反応し、心拍数や血圧の低下、脳貧血による失神などを引き起こす(迷走神経反射)とされている。頸部に刺激する時に気をつけなければいけないことは内出血である。鍼の手技で雀啄は使ってはならない。雀啄をして患者に危険を生じさせた例を聞いたことがある。特に頸部の内出血には注意が必要だ。頸部への通電治療は迷走神経を刺激するという主たる

目的と内出血を最小限度に抑えるという点で活用できる。倉島宗二先生の書かれた「代田文誌先生の腰痛治療」を読むと、代田先生は患部への揉捻と鍼の刺入が中心の手技で、通電治療はあまり使っておられなかったようである。倉島先生は中国との学術交流の後、積極的に通電治療を使われたので、筆者もこの通電治療という刺法を日常の臨床に使用している。倉島先生に「なぜに通電治療を使わ

れるか」と直接聞いたところ「刺激を安定的に加えられることができるから」というのが主な理由であった。

筆者は通電治療が頸部の筋肉に振動を与えることにより、広い範囲で末梢神経に刺激を及ぼすことができると考えて臨床に使っている。通電治療は以前代田先生が考案された「洞刺」の代わりに応用することも可能である。

### 「洞刺」

代田文誌先生は喘息の治療などを目的として頸動脈洞部への刺鍼を試みた。この手技を「洞刺」と称した。

#### 頸動脈洞刺鍼(洞刺)法

- ①使用鍼：寸三(3・8cm)・2号
  - ②刺鍼法：単刺術：直刺して目的のところに鍼が当たたらすぐ抜き去る。
  - 洞部に達するまでの鍼の深さは、0・5から1・5cm。
- 患者をベットのの上に仰臥させ、下顎を上に向けて反転させる。それから咽頭結節の上縁から外側に開くこと約2・5cm、胸鎖乳突筋の前縁で頸動脈の拍動を触れる部に刺鍼点を定める。



## 関 忠雄

Seki Tadao

1949年 長野県生まれ  
 1973年 中央大学法学部卒業  
 1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業  
 倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修  
 関鍼灸治療室を開設  
 2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修  
 研究題目「迷走神経と経絡との解剖学的相関について」

2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修  
 2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長  
 2013年 アルゼンチン(F・バレイラ)鍼灸院院長  
 2016年 アルゼンチン、ドイツ、日本(名古屋市)にレモンバーム・アカデミー開設  
 2018年 アルゼンチンから帰国